

伊根で生きる。 上世屋で生きる。

伊根で花咲く
酒づくり
上世屋で生きる
4人のなりわい

京都府立丹後海と星の見える丘公園開園20周年記念事業

日本酒×里山トークライブ！

京都府北部に位置する伊根町、宮津市上世屋は、海と山に囲まれ、豊かな大地と清らかな水、寒暖差のある気候です。これらの自然を背景に、酒造りが営まれてきました。自然を背景に営まれる酒造りや酒米を育てる田、風雪に耐えながら生きる6名のなりわいに焦点をあて、自然とともに生きることについて考えます。

2026.6.28 [日] 14:00-16:30

申込フォーム



参加費 無料

会場 京都府立京都学・歴彩館小ホール
中継会場 京都府立丹後海と星の見える丘公園セミナーハウス

定員 府立京都学・歴彩館 100人 (先着)
府立丹後海と星の見える丘公園 50人

主催：きょうと生物多様性センター・
京都府立丹後海と星の見える丘公園・京都府

問合せ Tel. 075-354-5275 / 075-744-1107

日本酒×里山

伊根で生きる。上世屋で生きる。

(敬省略)

プログラム

14:00 はじめに

酒の歴史—生物文化多様性のひとつとして—
きょうと生物多様性センターセンター長 湯本 貴和

14:20 講演

—豊かな伊根の自然で醸す—

「微生物は楽しい！私の酒造り」

向井酒造(株) 杜氏 向井 久仁子

14:50 トークリー
& 座談会

「里山で生きる」

—自然を活かす営みと流域のつながり—



京都府立京都学・歴彩館にて伊根・上世屋で生きる6名のお話をお伺いします。
日本酒や里山の暮らし・移住に興味のある方、彼らのなりわいをのぞいてみませんか。

登壇者

(敬省略)



向井酒造(株) 杜氏 向井 久仁子

京都府の丹後半島の伊根町で杜氏をしております、向井久仁子です。
弊社は、めずらしい、酒蔵から海に飛び込めるといって世界一海に近い醸造所です。重要伝統的建造物群保存地区に指定された日本海の舟屋の町、伊根町で創業263年を迎えます。
毎年、学んだ成果を出せるよう、蔵のみんなで協力しお酒を造っております。昔ながらの味を守りながら、地元の食材に合った飲み飽きしない純米酒を根幹に、お客様に少しの工夫で日本酒の幅が広がる事を発見していただけたらと、日本酒の新酒開発にも力をいれております。



田/酒

農家・蔵人
上野 広尚



和紙

いとをかし
大江 歩



織物

藤織り工房のの
齊藤 麻弓



田/狩猟

上世屋獣肉店
小山 愛生



ガイド

宮津世屋エコツーリズム
ガイドの会
安田 潤

伊根町野室地区にて無施肥・無農薬の自然栽培をしています。虫も草も野菜も米もその他の生き物も人間も、共に育っていきけるような場所ができるように目指しています！

冬は向井酒造さんと蔵人として働き、自分の育てた酒米をお酒にするという貴重なお仕事をさせていただいています！

趣味はレコード収集、野草を食べることなど、よろしくお願ひします！

2011年に上世屋へ移住。隣の谷で営まれていた「暮らしの中の紙漉き」と和紙の持つ柔軟性に惹かれ、翌2012年いとをかしの屋号で紙漉きを始めました。上世屋内で4度の引っ越しを経て、古民家で和紙のアトリエショップ兼住居を構築中。原料の木の栽培・採取から製品づくりまで、土や火、川や雪や風の力をかりて製作をしています。空気が光により近い暮らしに馴染む和紙づくりを目指しています。

藤織りは山に自生する藤の蔓の繊維で糸を作り布に織り上げる織物で、上世屋で永く続けられてきました。身近にあるものを上手に活用して暮らす、人間の精神と知恵が藤織りにはたくさん詰まっています。土地との関わりが深い織物である藤織りがこれからも上世屋で続いて欲しい、との思いで移住しました。昨冬、降り積もった雪と格闘しながら、この雪が藤織りを守ってきたのだ、と改めて感じたところです。前職は西陣織手織り職人。

上世屋で狩猟・ジビエ業や有機のお米作りをしています。小さな棚田での作業効率とはとにかく悪い。一方で、村人に受け継がれてきた稲木干しなど自然や風土をうまく生かした農のナリワイには魅力があると感じます。最近では子どもの影響でラグビー熱再燃。イベント日は、試合終わりからの直行予定です。

昭和47年、新任教諭として赴任した「上世屋分校」は全校生徒10人でした。4年後、生徒は2人。統合される「学び舎」の前で「農業基本法からですわ、村が立ち行かなくなったのは！」。世屋村、代々のリーダー家当主の方のそのことばが耳にこびりついています。上世屋は、地形、地質上、時代の求める大規模化・機械化のできない土地柄なのです。今、その上世屋高原に「カエルの館」を構え、自然共生サイトに関わっています。

問合せ

きょうと生物多様性センター
TEL:075-354-5275 / 075-744-1107

会場
中継会場

京都府立京都学・歴彩館小ホール
京都府立丹後海と星の見える丘公園セミナーハウス

素材（皆様からの写真データ等）



上世屋で狩猟・ジビエ業や有機のお米作りをしています。小さな棚田での作業効率とはとにかく悪い。一方で、村人に受け継がれてきた稲木干しなど自然や風土をうまく生かした農のナリワイには魅力があると感じます。最近はその影響でラグビー熱再燃。イベント日は、試合終わりからの直行予定です。

昭和47年、新任教諭として赴任した「上世屋分校」は全校生徒10人でした。四年後、生徒は2人。統合される「学び舎」の前で「農業基本法からですわ、村が立ち行かなくなったのは！」。世屋村、代々のリーダー家当主の方のそのことばが耳にこびりついています。上世屋は、地形、地質上、時代の求める大型化機械化のできない土地柄なのです。...、今、その上世屋高原に「カエルの館」を構え、自然共生サイトに関わっています。



申し込みQRコード



【いとをかし 大江 歩】2011年 上世屋へ移住。隣の谷で営まれていた“暮らしの中の紙漉き”と和紙の持つ柔軟性に惹かれ、翌2012年いとをかしの屋号で紙漉きを始める。上世屋内で4度の引っ越しを経て、古民家で和紙のアトリエショップ兼住居を構築中。原料の木の栽培・採取から製品づくりまで、土や火、川や雪や風の手をかりて製作を行う。空気や光により近い暮らしに馴染む和紙づくりを目指している。